

令和6年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

令和6年9月10日
上富良野町教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の期日 令和6年4月18日(木)

5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	上 富 良 野		北 海 道		全 国	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	74	738	21,043	18,850	1,029,501
中学校	1	74	472	20,872	10,228	1,061,240

II 調査の結果

※今回の調査で測定できるのは「学力の特定的一部分」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。

1 児童生徒の学力の状況

(1) 小学校

教 科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国 語	67.0	67.7	全国平均をやや下回る
算 数	61.0	63.4	全国平均とほぼ同様

(2) 中学校

教 科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国 語	69.0	69.8	全国平均をやや下回る
数 学	51.0	52.5	全国平均をやや下回る

※上記の基準 「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1～+3
「ほぼ同様」 ±1
「下回る」 -3以下 「やや下回る」 -1～-3

小学校は、算数が全国平均とほぼ同様でしたが、国語は、全国平均をやや下回りました。
 国語では、「情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し合うこと」に成果が見られましたが、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」に課題が見られました。
 算数では、「数量の関係を□を用いた式で表すことができる」に成果が見られましたが、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、どちらが速いかの理由を記述する」に課題が見られました。
 中学校は、国語、数学ともに、全国平均をやや下回りました。
 国語では、「具体と抽象などの情報と情報との関係について理解する」で成果が見られましたが、「目的に応じて必要な情報に着目して要約すること」で課題が見られました。
 数学では、「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法ができる」で成果が見られましたが、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」で課題が見られました。

2 児童生徒質問紙の傾向

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

(1) 家庭での生活・学習について

○基本的な生活習慣

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日食べている	92.2	93.7	97.3	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	90.9	82.9	82.4	80.7
毎日、同じくらいの時刻に起きている	92.2	91.6	95.9	92.5

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？

(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	0.0	3.9	48.1	33.8	11.7	2.6
全 国	11.0	12.5	31.1	27.0	13.0	5.3
中学校	4.1	4.1	31.1	29.7	17.6	13.5
全 国	9.2	23.5	32.8	18.4	10.4	6.6

○平日、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか？

(コンピューターゲーム、携帯式、スマートフォン等のゲームも含む)

	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	1時間以下	全くしない
小学校	15.6	10.4	14.3	41.6	11.7	6.5
全 国	17.7	12.6	18.9	25.1	17.7	8.0
中学校	23.0	12.2	25.7	16.2	17.6	5.4
全 国	16.6	12.4	19.9	21.4	17.7	11.2

○学校の授業以外に平日、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか？

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
小学校	2.6	2.6	13.0	26.0	29.9	26.0
全 国	3.2	4.3	12.3	24.4	29.9	25.9
中学校	2.7	2.7	10.8	21.6	28.4	33.8
全 国	2.3	3.8	10.5	19.8	34.8	28.4

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣（早ね・早おき・朝ごはん）が身に付いている。
 平日の勉強時間では、小・中学生ともに３０分～２時間が多く、２時間以上勉強している割合は、全国よりも少なくなっている。
 平日のゲーム時間については、小学では１～２時間が最も多く、中学生では「２時間以上」が全国よりも多くなっている。
 平日、勉強のためにタブレットなど ICT 機器を使う時間については、小・中学生ともに、ほぼ全国と同じような割合になっている。

(2) 学校での生活・学習について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
自分には、よいところがある	85.8	84.1	75.7	83.3
将来の夢や目標を持っている	75.3	82.4	66.2	66.3
人が困っているときは、進んで助けている	93.5	92.7	91.9	90.1
友達関係に満足している	86.9	90.3	93.0	88.7
学校に行くのは楽しい	85.8	84.8	74.3	83.8
いじめは、どんな理由があってもいけない	100.0	96.7	100.0	95.7
人の役に立つ人間になりたい	93.5	95.9	98.6	95.2
国語の勉強は好き	62.4	62.0	58.1	64.3
国語の授業の内容はよく分かる	85.7	86.3	79.7	82.7
国語で学習した内容は、将来、社会に出た時に役に立つ	94.8	93.2	78.3	90.6
算数・数学の勉強は好き	68.9	61.0	68.9	57.2
算数・数学の授業の内容はよく分かる	83.2	82.1	75.6	75.7
算数・数学で学習した内容は将来、社会に出た時に役に立つ	94.8	94.1	78.4	76.5
理科の勉強は好き	89.6	83.6	59.5	68.3
自然の中や日常生活、理科の授業において、理解に関する疑問をもったり問題を見いだしたりすることがある	83.2	84.2	55.4	70.7
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている	87.0	85.0	45.9	71.5
授業で、課題に対し自ら考え・取り組んだ	80.5	81.9	75.7	80.3
授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した	74.1	67.6	62.2	64.8
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	88.8	86.3	79.8	86.1
授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を週 3 回以上使用した	66.3	59.5	86.5	64.4
ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	85.7	85.5	77.0	80.2
ICT 機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	94.8	92.1	97.3	93.9

「自分にはよいところがある」と認識する「自己肯定感」は、中学生は、全国よりも下回ったが小学生では、全国より上回った。
 「将来の夢や目標を持っている」については、中学生は全国とほぼ同様となったが、小学生は、全国よりも下回った。
 「人が困っているときに助けている」「友達関係に満足している」では、小・中学生ともに高い割合となっていて、充実した学校生活を送っていることが推察できる。
 「いじめは、どんな理由があってもいけない」については、全員の児童生徒が理解されていて、いじめに対する認識は深まっている。
 更に、「人の役に立つ人間になりたい」という「自己有用感」についても、小・中学生ともに大変高くなっている。
 PC・タブレット等の ICT 機器を活用して、分からないことがあったらすぐ調べたりしながら、自分のペースで学習を進めることができる割合は、非常に高くなっている。

(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
地域や社会をよくするために何をしてみたい	81.6	83.5	86.5	76.1
自分の家にある本数が26～100冊(雑誌・新聞・教科書以外)	41.6	32.2	32.4	31.4
新聞を週1回以上は読んでいる	3.9	11.6	6.8	7.3

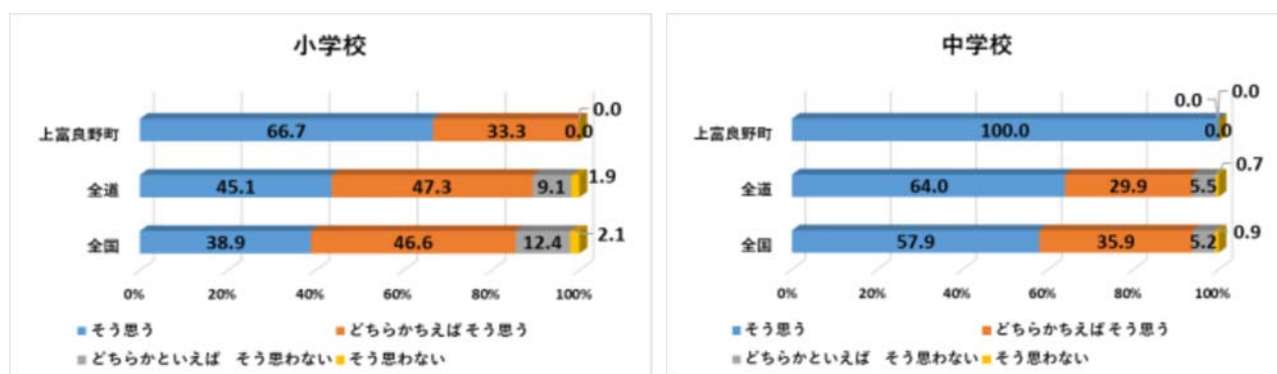
「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という思いは、小・中学生ともに高くなっている。

自宅の蔵書数は、全道・全国とも26～100冊が一番多く、本町も同様の傾向である。

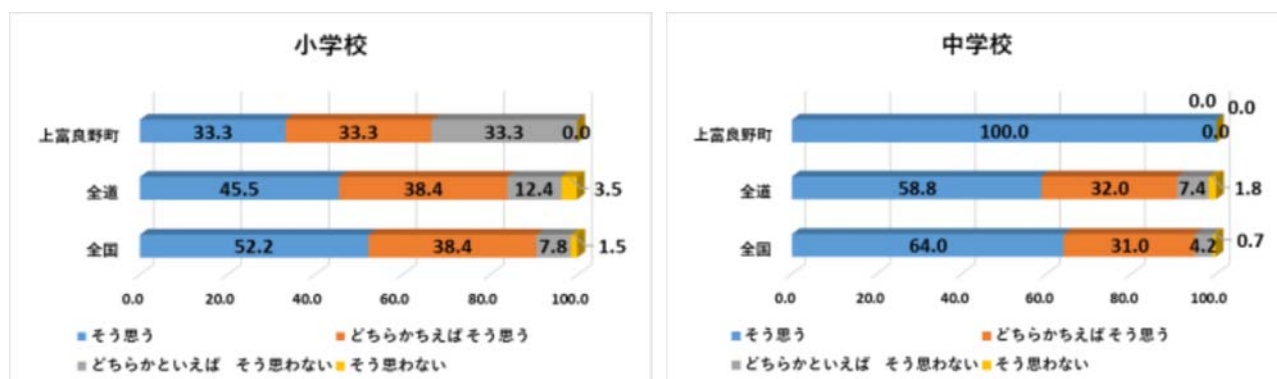
「新聞を週1回以上読むこと」については、全国の傾向も高くはないが、全国では、中学生よりも小学生の割合が高くなっているが、本町では、中学生の割合が、小学生よりも高くなっている。

3 学校質問紙の傾向

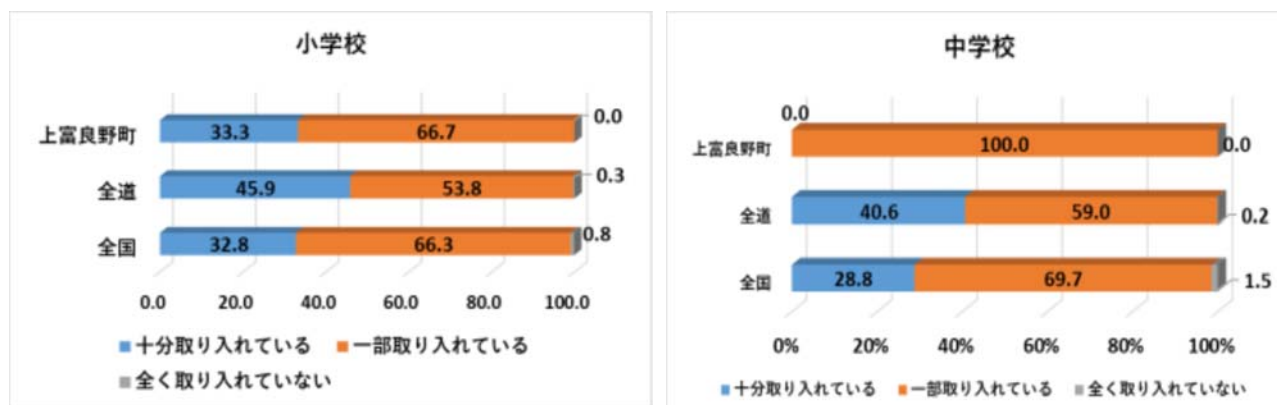
(1) 児童生徒は、授業中の私語は少なく、落ち着いていますか。



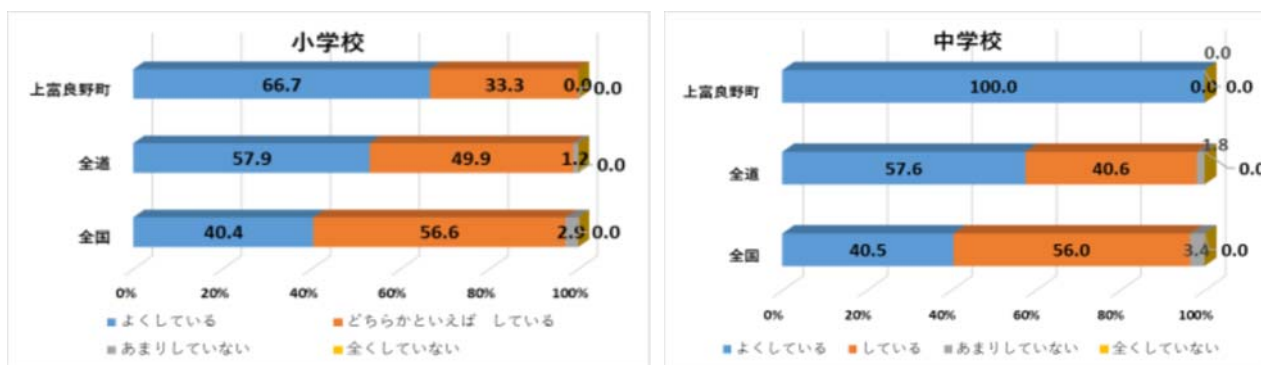
(2) 児童生徒が相談したいときにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに相談できる体制になっていますか



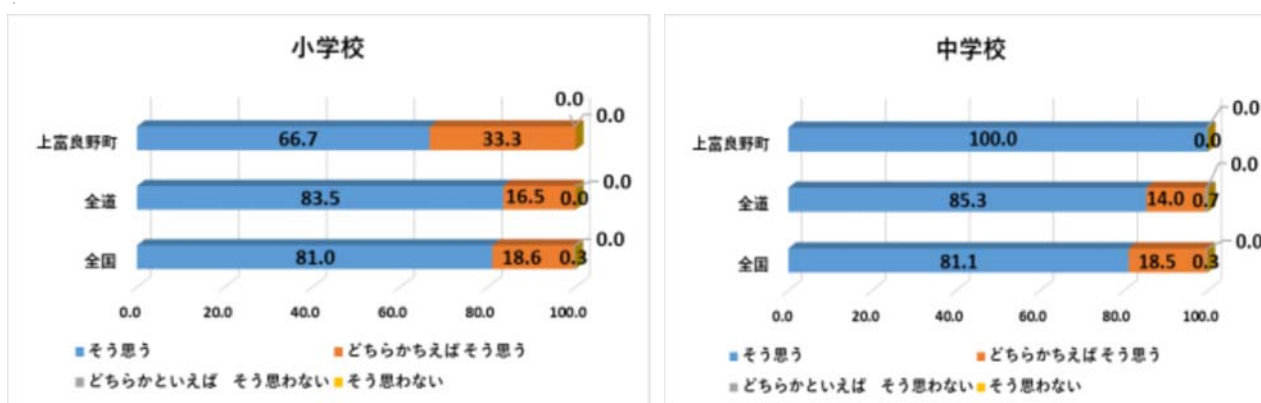
(3) ICT を活用した校務の効率化（業務の軽減）に取り組んでいますか



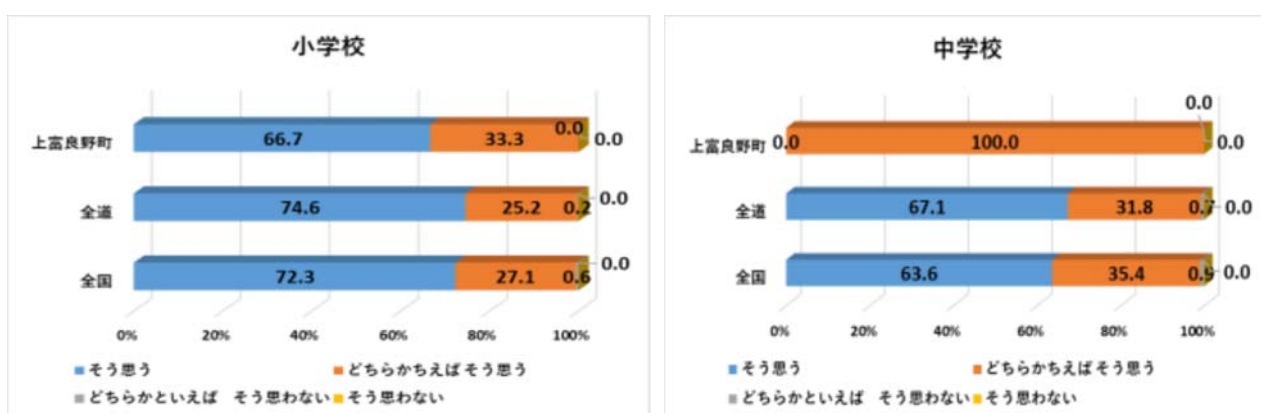
(4) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立していますか



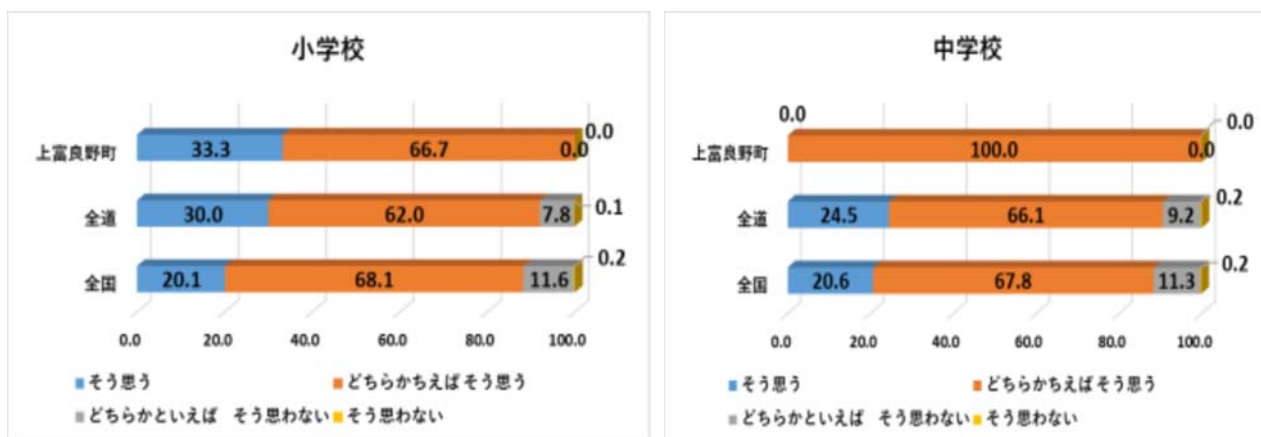
(5) 児童生徒の様子を可能な限り多くの教職員で見取り情報交換をしていますか



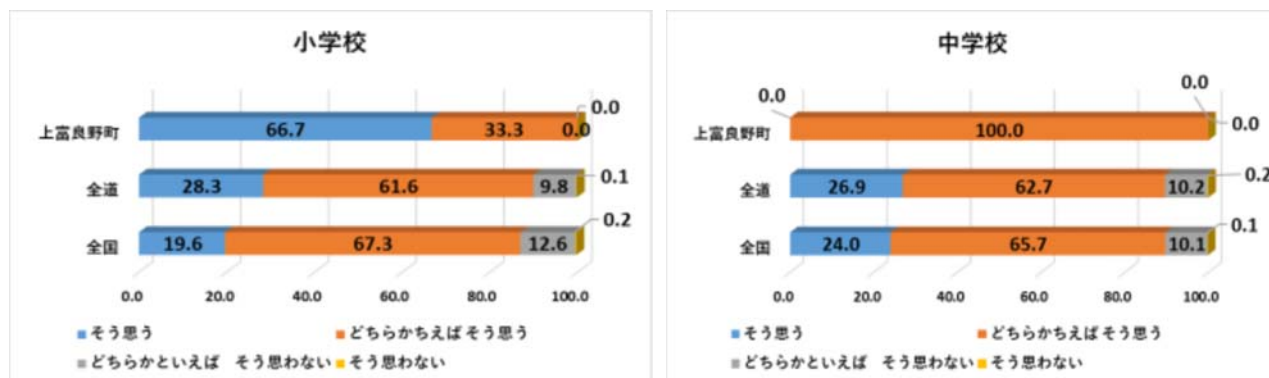
(6) 教職員が困っているとき、互いに相談しやすい雰囲気がありますか



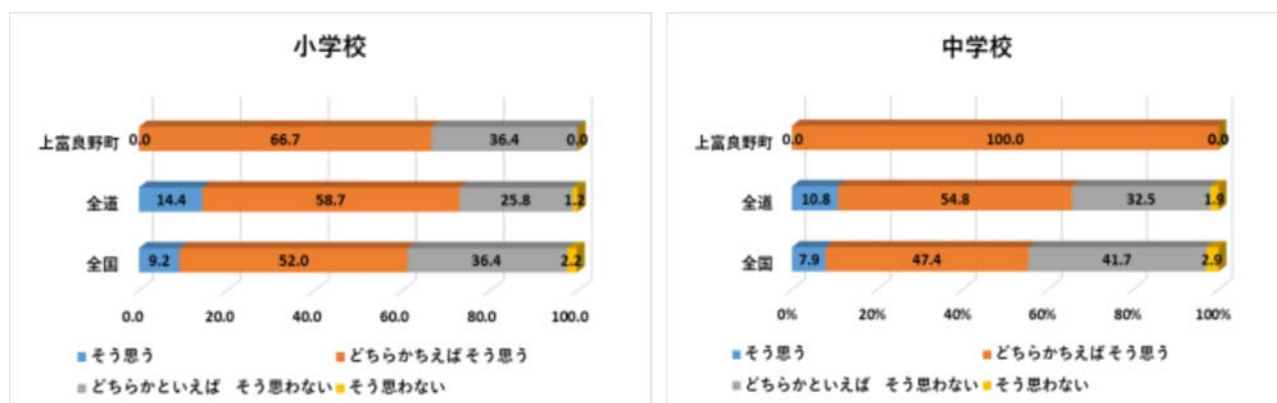
(7) 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むことができている



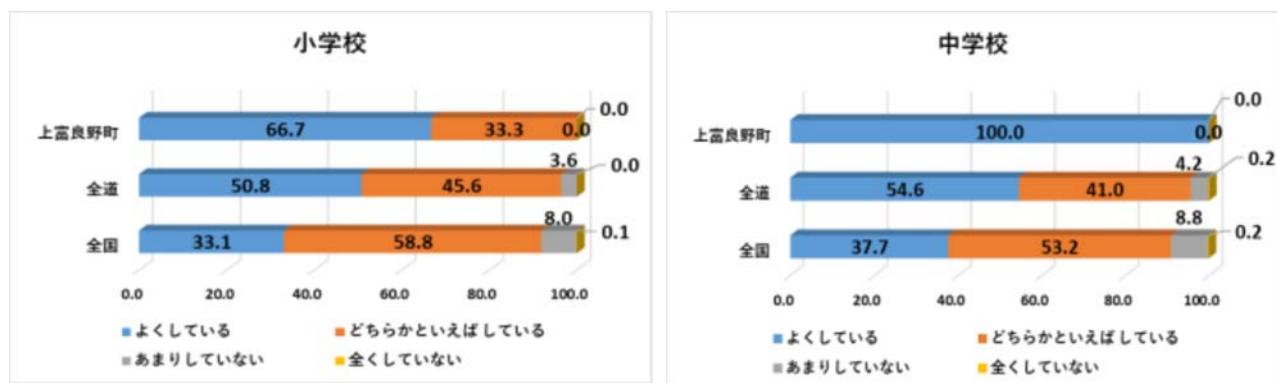
(8) 児童生徒は、話し合い活動で、自分の考えをしっかりと伝えることができますか



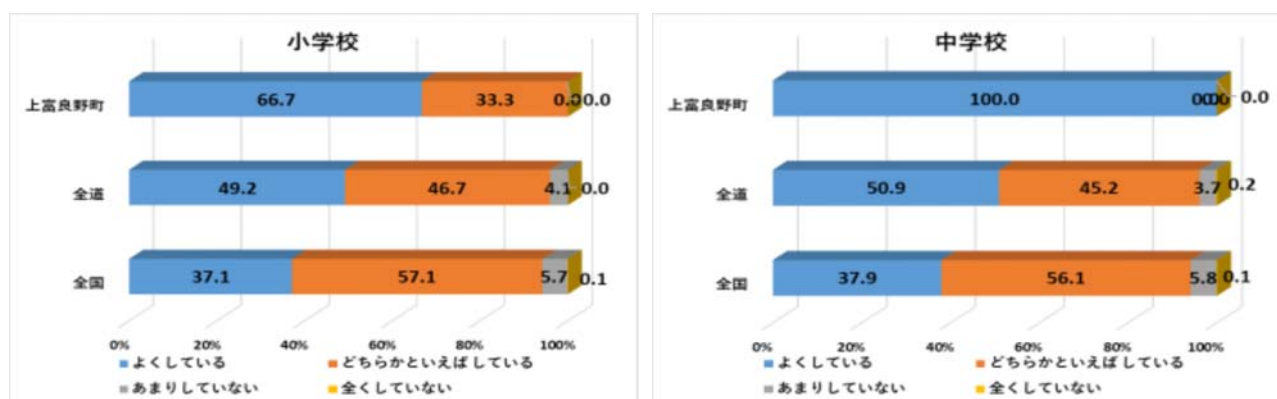
(9) 授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決めて、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか



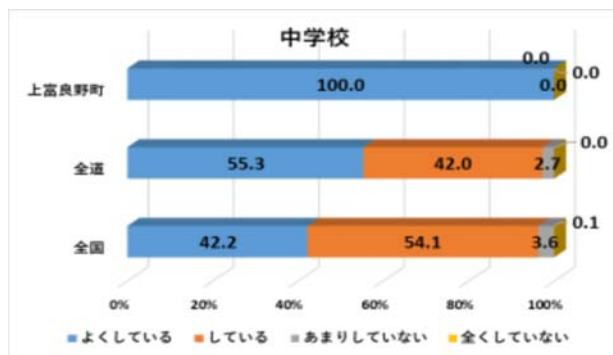
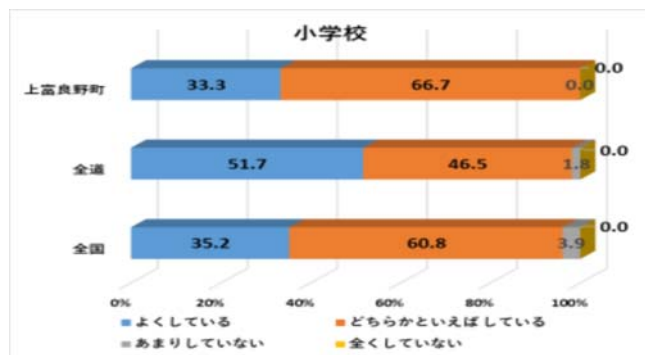
(10) 総合的な学習の時間において、課題設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか



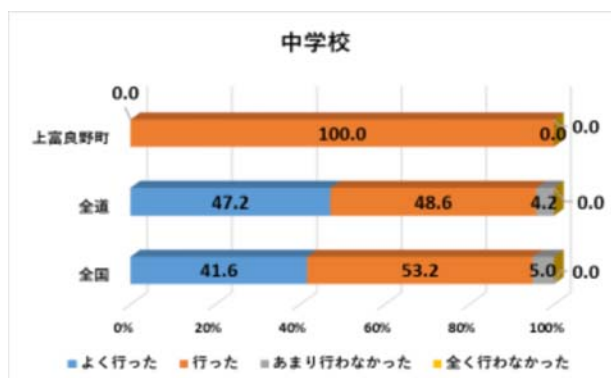
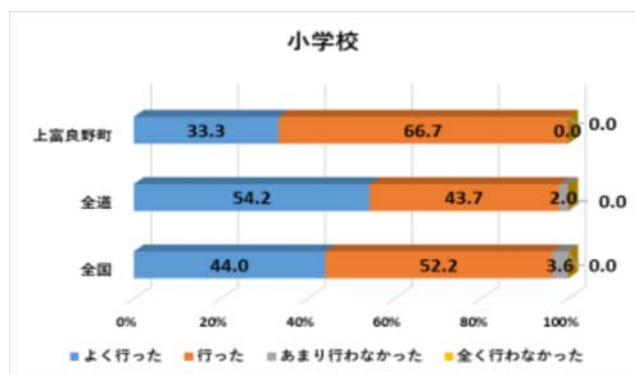
(11) 学校生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法などを合意形成できる指導を行っていますか



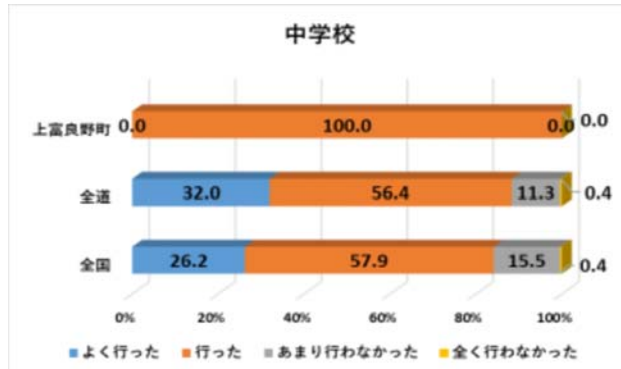
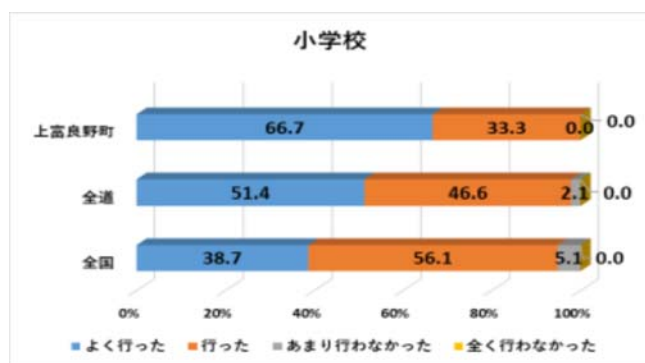
(12)「特別の教科 道徳」において、自分自身の問題として捉え、考え・話し合うような指導の工夫をしていますか



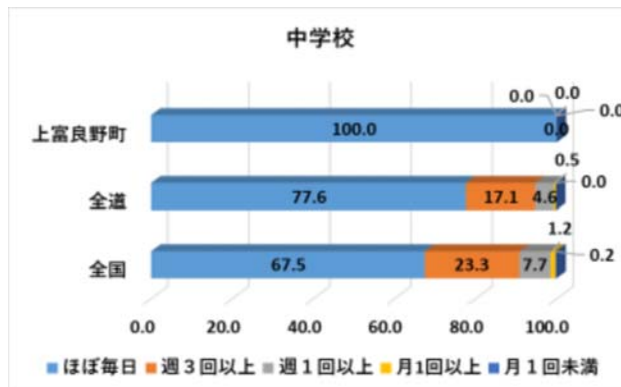
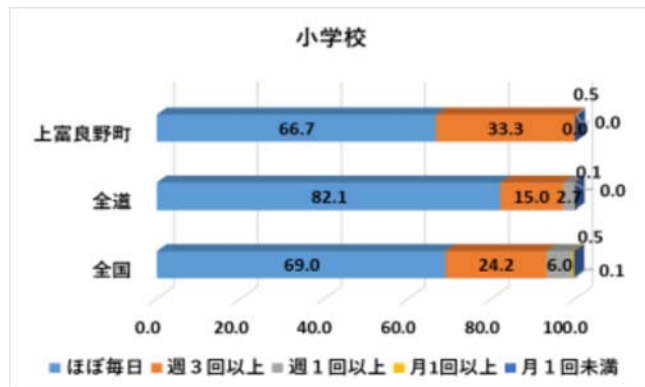
(13)算数・数学の授業では、問題の答えを求めさせるだけではなく、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業をしていますか



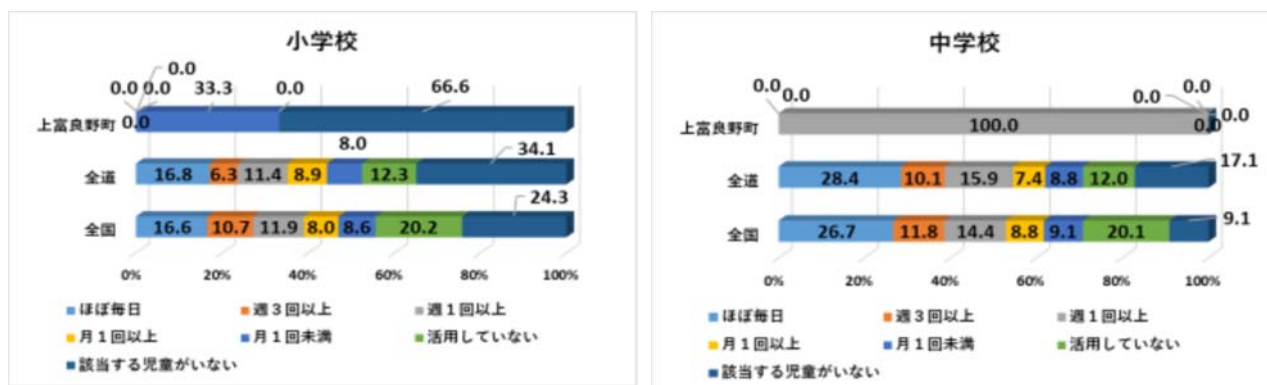
(14)理科の授業では、自ら考えた予想や仮説をもとに、実験や観察の計画を立てる指導をしていますか



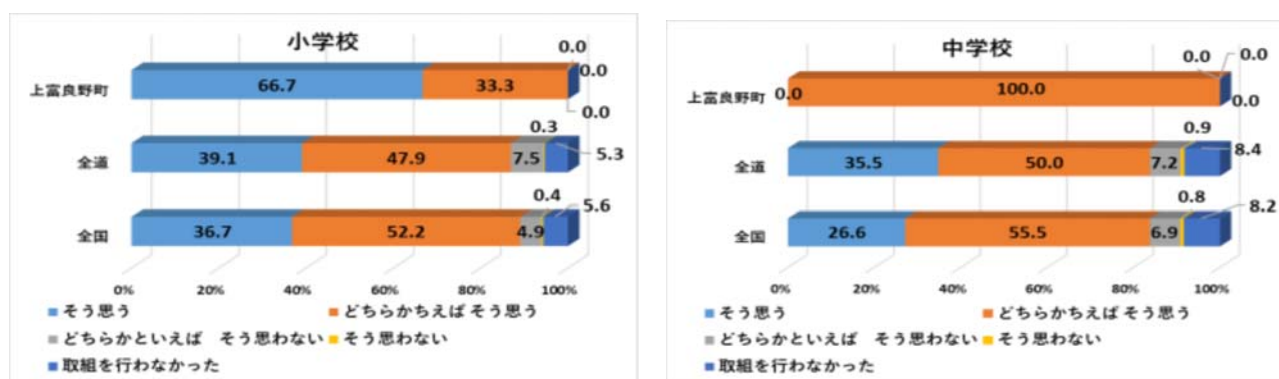
(15)児童生徒に配備されたPC・タブレットを授業で、どの程度使いましたか



(16) PC・タブレットなどの ICT 機器について、不登校児童生徒に対する学習活動の支援として、どの程度活用していますか



(17) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まっていますか



- 小・中学校ともに、授業中は、集中し、落ち着いて学習に取り組んでいる。
- 小・中学校ともに、児童生徒がスクールカウンセラー等に相談できる体制ができているととらえている。
- ICT 機器等を活用しての校務の効率化（業務の軽減）の取組は、小・中学校いずれも進められている。
- 小・中学校ともに、PDCA サイクルが確立され、様々なデータ等を基に、教育課程の編成・実施・評価・改善がなされている。
- 小・中学校では、児童生徒の様子を担当だけではなく、可能な限り多くの教職員で見取る体制を整え、児童生徒の様子について情報交換されている。
- 小・中学校ともに、教職員同士が、互いに相談しやすい職場の雰囲気が醸成されている。
- 本町の児童生徒は、課題解決に向けて、主体的に取り組むことができていると、小・中学校ではとらえている。
- 「総合的な学習の時間」では、自ら課題を決定し、まとめていくまでの探究していく過程を意識した授業に、小・中学校ともによく取り組まれている。
- 学級や学校をよりよくするための話し合い（学級活動）では、自分と違った意見などからもその良さを見いだし、合意形成していくような指導がなされている。
- 「特別の教科 道徳」において、課題を自分事として捉えて考え、話し合うことを重視し、「議論する道徳」にむけた授業改善が進められている。
- 算数・数学の指導では、ただ問題の答えを求めさせるだけではなく、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業が、小・中学校ともによく行われている。
- 「日常の授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を使う頻度」については、昨年度は「ほぼ毎日」が、約 30%ほどだったが、今年度は、小学校でも 60%を超え、活用頻度は全国並みになってきている。
- 不登校の児童生徒の学習活動の支援として、「PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度活用しているか」については、小学校より中学校のほうが活用頻度は高い。このことは、不登校の児童生徒数に関係していると想定されるとともに、中学校においては、しっかりと生徒の学びを保障する取組がなされていると考えられる。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との、相互理解は深まっていると、小・中学校ともにとらえている。

Ⅲ 現状と今後の取組

- 1 小学校は、算数が全国平均とほぼ同様でしたが、国語は、全国平均をやや下回りました。国語では、「情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し合うこと」に成果が見られましたが、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」に課題が見られました。

算数では、「数量の関係を□を用いた式で表すことができる」に成果が見られましたが、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、どちらが速いかの理由を記述する」に課題が見られました。

また、国語、算数ともに、上位グループと中位グループの割合が、全国よりも多くなり、下位グループが、全国より少なくなった。

中学校は、国語、数学ともに、全国平均をやや下回りました。

国語では、「具体と抽象などの情報と情報との関係について理解する」で成果が見られましたが、「目的に応じて必要な情報に着目して要約すること」で課題が見られました。数学では、「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法ができる」で成果が見られましたが、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」で課題が見られました。

また、国語、数学ともに、中位グループと下位グループの割合が全国よりも多くなっていて、国語と数学を比較すると、数学のほうが、国語より下位グループの割合が多い。

「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取組や小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

- 2 基本的生活習慣が身についている児童生徒が多い。学校の授業以外で、平日、勉強のためにICT機器を使う時間」では、小学生では、「30分～1時間」、中学生では、「30分より少ない」の割合が、一番多くなっている。

一方、「平日、ゲームをする時間」は、小学生では、「1～2時間」が最も多く、全道並びに全国の1.5倍。中学校では、4時間以上が23%と全道（19.5%）、全国（16.6%）と、全道・全国より多くなっている。

全国と比較すると、「勉強時間は、短く」、「ゲームの時間は、長い」という実態である。生活リズムチェックシートの活用等、家庭と連携した取組を促進していく必要がある。

- 3 「自分には、よいところがあると思う」について、肯定的な回答した割合は、小学生が85.8%（全国84.1%）、中学生が、75.7%（全国83.3%）となり、小学生では、若干全国を多い割合だったが、中学生では、全国よりも少ない割合となった。

日常の授業や行事等の取組など、さまざまな活動の機会を通し、児童生徒一人一人の良さを認め、更なる自信につなげていく必要がある。

- 4 「将来の夢や希望をもっている」について、小学生では75.3%（全国82.4%）、中学校では66.2%（全国66.3%）と小学生で、全国よりも少なくなり、中学生では、全国とほぼ同様だった。

職場体験学習の充実をはじめ、キャリア形成をめざすキャリア教育の工夫が必要である

- 5 「学校に行くのが楽しい」と回答する児童生徒について、小学生は、85.8%（全国84.8%）と、全国よりも若干多くなり、中学生は、74.3%（全国83.8%）となり、全国よりも約1割ほど少なくなった。

「学ぶことや学校生活が楽しい」と児童生徒が実感できる授業や諸活動へと、より一層工夫・改善していく必要がある。

- 6 普段の授業において「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」について、週3回以上と回答した児童生徒の割合が、小学校では、67.3%（全国59.5%）、中学校では、86.5%（全国64.4%）となり、普段の授業で、PC・タブレットの活用が、全国よりも促進されている状況となっている。

また、「授業以外で、勉強のためにICT機器を使う時間」に対しては、小・中学生ともに①30分より少ない②30分から1時間の割合が多く、全国も同様の傾向である。

また、「タブレットを家へ持ち帰って学習に活用している」ことについては、「毎日持ち帰っている」「時々持ち帰っている」が、小学校では、全道で31.3%、全国36.2%、中学校では、全道46.0%、全国45.5%となっていて、家庭への持ち帰りによる活用が促進されている。

今後、上富良野町ICT推進委員会と各学校の連携を通しながら、活用促進を図る必要がある。